明治四年五月十四日被列大社ニ、官幣

所在千葉縣安房國安房郡大神戸村大字宮ノ下

例祭八月十日

安房座神社　名神大月次新嘗

安房は國名、郡名等に同じ、○祭神天太玉命、一宮記、頭注、○太神宮村に在す、地名記、例祭　月　日、○當國一宮也、一宮記、○式三、臨時祭、名神祭二百八十五座、中略、安房國安房神社一座、

逸亂　按るに、一宮記、號ニ洲崎明神ニといへり、是に依て古事記傳にも、今洲崎明神と申すと云る共に謬也、洲崎明神とは后神を稱すにて、則房總志料に、洲崎明神は后神天比理咩命也と云るぞ正しき、

鎮座

舊事紀、天皇本紀、神武天皇元年、天富命於ニ安房地一立ニ太玉命社一、謂ニ安房社一是也、○古語拾遺云、逃ニ于神武天皇、中略、天富命更求ニ沃壤一、分ニ阿波齋部一率ニ往東土一播ニ殖麻穀、中略、天富命即於ニ其地一立ニ太玉命社一、今謂ニ之安房社一、故其神戸有ニ齋部氏一、

神位

續日本後紀、承和三年七月甲申、安房國無位安房大神奉レ授ニ從五位下一、同九年十月壬戌、奉レ授ニ安房國從五位下安房大神正五位下一、文德實錄、仁壽二年八月丙辰、安房國安房神、特加ニ從三位一、三代實錄、貞觀元年正月廿七日甲申、奉レ授ニ安房國從三位勳八等安房神正三位一、

神稅　社領

續日本後紀、承和十四年七月壬申、加ニ安房國大神、並從神祭、正稅穀一百斛一、○當代御朱印高三十石四斗

后神天比理乃咩命神社大元名洲崎神

后神は岐佐岐賀美、天は阿女と訓べし、比理乃咩は假字也、○祭神明か也○洲之宮村に在す、地名記、今二宮洲崎明神と稱す、例祭　月　日、

神位

續日本後紀、承和九年十月壬戌、奉レ授ニ安房國无位第一后神天比理乃咩命神從五位下一、文德實錄、仁壽二年八月丙辰、安房國大天比理乃咩命神特加ニ從三位一、三代實錄、貞觀元年正月廿七日甲申、奉レ授ニ安房國從三位天比乃理乃咩命神正三位一、

社領

當代御朱印高七石

雜事

扶桑見聞私記五云、治承四年八月廿九日、武衛令レ着ニ安房國平群郡猥島一云々、其夜當國洲崎明神ノ御寶前ニテ御念誦有テ「源ハ同シナガレソ石清水セキアゲテタベ雲ノ上迄」此明神ハ八幡大菩薩ヲ奉レ祝」同十云、治承五年二月日、下須宮神官等可レ早令ニ安房國須宮免ニ除萬雜公事一云云、可レ令ニ免除一之狀如レ件、仍在廳等宜承知勿ニ違失一、

逸亂　按るに、當社は八幡宮を祝ひ祭るにはあらず、然るに、源は同じ流れなどよみ給へるをおもへば、所謂時勢に從ひてかくは沙汰したるなるべし、又永享記に、太田道灌江戸城を築れたるとき、安房の洲崎明神を勸請して、神田明神と齋ひたるよし見えたるも、同日